

新居浜市SDGs推進プラットフォーム会員のSDGsに関する取組状況

団体番号 (入会日順)	136	入会日	令和6年06月07日
団体名称	耕力農園株式会社		
代表者	代表取締役 岡 寛		
業種	農業・漁業・林業		
所在地	〒792-0896 愛媛県新居浜市阿島乙174(西日本砕石株式会社内)		
TEL	090-1174-4832		
SDGsについて 現在取り組んでいること	<p>(1)有機農業に取り組んでいます。 生きものにぎわい豊かな美しい田園風景を未来に残していくために、持続可能性の高い農業生産の方法を模索しています。現在は堆肥を使った土づくりを行う有機農業に取り組んでいます。</p> <p>(2)有機農業を支える堆肥づくりに取り組んでいます。 豊かな土壌は、有機物とそれを食べる微生物の働きでつくられています。この自然生態系の機能を最大限に発揮することができる堆肥の製造。現在はお茶殻とケイ酸を多く含んだクリンカを原料とした堆肥を製造しています。</p> <p>(3)栄養価の高い農産物づくりに取り組んでいます。 野菜を食べる理由は身心の健康のためと思います。健康な土づくり、健康な野菜作りを通して、食べる人の健康を支えることができる野菜づくりの方法を研究、実践しています。</p> <p>(4)有機農業技術の普及啓発活動 月に1回、「有機農業のすすめ」と題して、有機農業に関する勉強会を開催しています</p>		
目指しているゴール (今後目指したいゴール)			

新居浜市SDGs推進プラットフォーム会員のSDGsに関する取組状況

<p>SDGsについて 今後取り組みたいこと</p>	<p>新居浜GX(グリーントランスフォーメーション)仮称 (1)0.4イニシアティブへの参加 地球温暖化の原因とされる増えすぎた二酸化炭素の発生源は石油石炭などの化石燃料が原因とされています。もともと土中から掘り出してきた炭素だから、有機物などの形で再び土壌へ戻すことができる。土壌に含まれている炭素を現状よりも0.4%増やすことで、化石燃料によって大気中に増えている二酸化炭素を相殺できる。2015年、フランスで開催された気候変動枠組み条約締約国会議で提案された取り組みです。土壌を二酸化炭素の貯蔵庫として積極的に活用し、二酸化炭素を吸収する植物を育てることで、増えすぎた二酸化炭素を減らす。いち市民が、自分のペースで、身近に植物を増やしていくことで、だんだん町全体が、緑が豊かな町になっていく。町に植物が増えていくと、それを棲家とする生きものも増えていくでしょう。食べられる植物を栽培してもよいでしょう。旬の野菜は、町の中で自給できるようになるかもしれない。植物の緑を眺め、とれたての野菜を食べる、町じゅうの人が健康になっていくかもしれません。町に緑を増やしていく。ただそれだけで、いろいろな効能が考えられます。町に緑を増やしていく。ただそれだけで、非常に魅力的な町になっていくと思います。</p> <p>(2)里山イニシアティブへの参加 わたしたちの暮らしは自然のめぐみの上に成り立っています。豊かな暮らしの基盤が、自然生態系であることを、わたしたちは忘れがちですが、町に緑が増えるということは、暮らしの豊かさを支える基盤が豊かになるということだと思います。物質的に恵まれている。精神的に豊かだ。というのは別に、生物が多い、生きているものが多いという豊かさがあるのではないのでしょうか？持続可能だけではいけないと思います。それでは、ただの現状維持です。持続可能な開発と発展にいくために、そして、今よりも豊かな社会にしていくための要素として、緑(植物)というものが、緑(植物)を中心に据えることで、より多くの多様な人の参加が可能となり、みんなで作ってあげていくものにしていくことができるのではないかと思います</p>
--------------------------------	--